

事務事業マネジメントシート (20年度実績と21年度計画)

21年度予算編成後 平成 21 年 3 月 日 作成
 20年度決算把握後 平成 21 年 6 月 日 作成

事務事業名		三つの木の家社会教育活動支援事業		<input type="checkbox"/> マニフェスト 関連	<input checked="" type="checkbox"/> 全庁横断 課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革 プラン関連
総合 計画 体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり	所属部	教育委員会事務局	課長名 高木 敏明
	施策	20	生涯学習の推進	所属課	生涯学習課	担当者名 衛藤 剛
	基本事業	68	学習やスポーツへの参加機会の提供	所属班	生涯学習班	(内線) 2432
				法令根拠	合志市三つの木の家自主事業実行委員会要綱	

予算科目	会計	款	項	目	事業連番	<input type="checkbox"/> 20年度で終了	<input type="checkbox"/> 21年度から開始	成果優先度評価結果	8
	1	10	5	5	10765			コスト削減優先度評価結果	6*22

事業期間 単年度のみ 単年度繰返(開始年度 H12 年度) 期間限定複数年度 (~ 年度)

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】
 自主事業実行委員会が、三つの木の家で実施する社会教育活動について支援を行う。

【業務の流れ】
 三つの木の家での各種自主事業運営の事務局として、実行委員会運営を支援するとともに、必要な経費を負担金として交付し、通学合宿事業や、ふれあい交流事業等を実施している。

【主な予算費目】
 負担金補助及び交付金、職員給与、職員手当

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	
① 手段(主な活動)	21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) 自主事業実行委員会負担金(900千円)交付、三つの木の家自主事業実行委員会開催2回、3泊4日通学合宿事業4回開催(5、9、10、2月)、ふれあい交流事業3回開催(7、11、1月)、子ども工作体験教室3回(6、12、3月)
20年度実績(20年度に行った主な活動)(DO) 自主事業実行委員会負担金(900千円)交付、三つの木の家自主事業実行委員会開催(5、2月)、3泊4日通学合宿事業4回開催(5、7、10、2月)、ふれあい交流事業4回開催(9、11、12、1月)、青少年体験活動に関する研修受講1回(1月)	
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 市民	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 (単位) → ア 三つの木の家自主事業の回数 回
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 学習やスポーツに意欲的に取り組んでもらう。	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位) → ア 人口 人
④ 上位の目的(さらにどんな目的に結び付けるのか) 学習やスポーツに参加する機会がある。	⑦成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位) → ア 三つの木の家自主事業の参加者数 人
	⑧上位成果指標(上位目的の達成度を表す指標)=④の指標 (単位) → ア 学習に頼しむ機会があると認む市民の割合 %

(2) 総事業費・指標等の推移

		単位	18年度 実績(決算)	19年度 実績(決算)	20年度 目標(当初予算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	22年度 (目標)	23年度 (予定)	全体計画 ~ 年度	
投入量	事業費	国庫支出金	千円							総 トータル コスト の み 記 載)	
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
	(A) 事業費計	千円	0	1,080	984	984	1,001	1,001	1,001		
	うち指定経費	千円									
	うち時間外、特殊勤務手当	千円		83	84	84	101	101	101		
	人件費	正規職員従事人数	人	4	6	6	5	6	6		6
		延べ業務時間	時間	550	550	700	710	700	700		700
(B) 人件費計	千円	2,184	2,189	2,786	2,826	2,786	2,786	2,786			
トータルコスト(A)+(B)	千円	2,184	3,269	3,770	3,810	3,787	3,787	3,787			

活動指標	回	8	8	8	9	10	10	10
対象指標	人	53000	53500	54000	54000	54500	55000	55500
成果指標	人	120	160	160	190	180	180	180
上位成果指標	%	45.1	50.8	45.5	47.3	45.8	46	

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?
 三つの木の家自主事業実行委員会が平成12年度から設置され、施設の有効利用と青少年の育成のため始まった。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
 平成11年度から社会教育施設として再スタートし、旧合志町地域の小・中学校だけでなく、住民団体の活動にも使用できるようになった。合併後は旧西合志町地域の学校や地域住民も利用できるようになったため、毎回定員を超える応募があり、抽選漏れが多数出ている。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?

事務事業名	三つの木の家社会教育活動支援事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	------------------	-----	----------	-----	-------

2 評価の部(SEE) *原則は20年度の事後評価、ただし複数年度事業は20年度における途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】↷ 三つの木の家自主事業を積極的に行うことによって、参加者が増え生涯学習の振興に結びつく。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】↷ 宿泊できる社会教育施設として、特色のある自主事業が行われるので、生涯学習機会を多方面に提供できるため妥当である。
	③対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】↷ 対象・意図とも現状では適切である。
有効性 評価	④成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】↷ これまで行ってきた事業に加え、子どもとその家族を対象とした「工作体験教室」を3回実施することにより、更なる青少年の健全育成と三つの木の家の利用促進に寄与すると考えられる。
	⑤廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】↷ 21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】↷ 三つの木の家自主事業への市民からの応募が多いので、廃止すると参加機会が減少することになる。また三つの木の家の利用者が減少し、施設の有効利用も損なわれる。
	⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ↷ (具体的な手段, 事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】↷ 他に類のない施設であるため、統廃合にはなじまない。 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】↷
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↷ 現在も多数のボランティアの協力を得ながら事業を進めている。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↷ 本年度から三つの木の家にパソコンを設置し、自主事業に関わる事務の一部を嘱託の指導員にも担ってもらっている。現時点ではこれ以上事務を分担することは難しいが、今後も職員と指導員とで協力し、効率的な事業を行うようにしたい。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】↷ 自主事業の参加者からは参加料を受けており、公平である。 宿泊体験は対象を小学校4～6年生に限定しているが、限定することにより効果を高めるものであるため妥当である。

3 評価結果の総括(SEE)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	①目的妥当性については、毎回参加応募者が多く、生涯学習の機会提供に寄与している。 ②有効性については、今後1日単位で行えるイベントを増やすことで、更なる学習機会の提供につながると思う。 ③効率性④公平性については、妥当であると思う。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 平成21年度より「子ども工作体験教室」を3回実施することにより、更なる学習機会の提供と施設の有効活用を図っていきたい。	(2) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持																							
	低下																							

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

年々負担金が減少している。これからも実行委員会への負担金の大幅削減が実施されれば、事業の一部見直し、もしくは受益者負担の増額は避けられない。

5 事務事業貢献度評価結果(施策の統括課長の総括)

(1) 目的の直結度	3	(直結度高い 1～3 直結度中 4～6 直結度低い 7～9)
(2) 貢献度	5	(貢献度高い 1～3 貢献度中 4～9 貢献度低い 10～12)